

# 令和元年度公益社団法人茨城県青少年育成協会事業報告 及び収支決算について

## [事業報告]

### 実施事業の概要

明日の茨城を担う青少年が、健やかにたくましく成長し、自立・活躍できる社会を実現することは、すべての県民の願いです。

しかしながら、急激な社会の変化に伴い、家庭や地域の教育力が低下している今日、青少年にとっての成長の糧となる生活体験や自然体験の減少により、規範意識や社会性の低下、思いやりの欠如、いじめ、不登校・ひきこもり・ニート、さらには、ネット犯罪の被害や児童虐待・貧困問題等様々な問題が指摘されています。

このような青少年を取り巻く問題は大人社会の反映であり、大人一人ひとりがこれらの問題に取り組むことは、私たちの責務であります。

そこで、地域の大人自らが、その現況を自覚し、学校・家庭・地域社会が相互に連携・協力していく「大人のマナーアップ運動—大人が変われば、子どもも変わる—」の普及促進を県民運動の根幹に据えるとともに、「地域を編む孤立0（ゼロ）プロジェクト事業」をとおした地域のネットワークづくりに取り組み、社会全体による青少年育成支援の環境整備に努めました。

また、青少年の自立心や社会性を育む「少年の主張茨城県大会」を継続して開催するとともに、市町村においても同様の主張大会が開催されるよう働きかけてまいりました。

さらに、青少年育成県民運動の更なる発展を目指し、青少年育成市町村民会議の全市町村設置と、関係機関・団体との連携を一層図りながら、次の7項目を重点目標として各種活動を展開しました。

### 重点事業

- 1 「大人のマナーアップ運動—大人が変われば、子どもも変わる—」の普及推進
- 2 「あいさつ・声かけ運動」の推進
- 3 「少年の主張茨城県大会」等青少年主張大会の充実
- 4 「明るく楽しい家庭づくり」運動の推進
- 5 「地域を編む孤立0（ゼロ）プロジェクト事業」の推進
- 6 青少年育成市町村民会議、関係機関、PTA、その他関係団体との連携強化
- 7 県立青少年会館の運営に関わる事業の充実

- 1 「大人のマナーアップ運動—大人が変われば、子どもも変わる—」の推進では、大人自らが自身を省みて手本となるよう心がける「大人のマナーアップ宣言」のほか、市町村との連携によるのぼり旗や啓発物品の共同作成をとおして普及啓発に努めた。
- 2 「あいさつ・声かけ運動」では、「いばらき教育月間」に呼応して、11月をあいさつ声かけ運動強調月間と定め、街頭キャンペーンを実施するなど、青少年育成市町村民会議、関係団体、学校等と連携し運動の一層の推進を図った。
- 3 「少年の主張茨城県大会」を開催し、青少年に社会の一員であることの自覚を促すとともに、青少年育成茨城県推進大会における最優秀者等の発表をとおして、青少年の健全育成に対する県民の理解と関心の向上に努めた。
- 4 「明るく楽しい家庭づくり」運動の推進では、小学生及び中学生から「家庭の日」を主題とした絵画やポスターを募集した。応募作品の一部を青少年育成茨城県推進大会で展示し、大会参加者による投票で最優秀作品を選定し、その作品を機関紙で紹介するなど、「家庭の日」の普及啓発を図った。
- 5 地域を編む孤立0（ゼロ）プロジェクト事業では、困難を抱える子ども・若者の支援活動に取り組む団体を公募し、2団体に補助金交付するとともに、取り組みの全体的な普及啓発を図った。  
また、不登校、ひきこもり、貧困問題などの現代的課題に対する理解を深めるため、関係4団体による合同研修会を開催し、現状についての情報共有に取り組んだ。
- 6 青少年育成市町村民会議、関係機関、PTAその他関係団体との連携強化では、青少年育成市町村民会議が開催する各種会議、研修会等に出席・参加し、情報の提供や活動の支援を行った。
- 7 県立青少年会館の運営に関わる事業の充実では、駐車場への防犯カメラの設置及びフェンス取付工事を実施するとともに、施設周辺の美化等に取り組み、利用者サービスの向上に努めた。

## 実施事業の内容

### I 県民運動推進事業

#### ◎ 県青少年育成協会の組織体制

|       |       |     |              |    |        |    |    |    |
|-------|-------|-----|--------------|----|--------|----|----|----|
| 役員    | 会長    | 1名  | 副会長          | 7名 |        |    |    |    |
|       | 理事    | 29名 | (会長、副会長を含む。) |    |        |    |    |    |
|       | 監事    | 2名  |              |    |        |    |    |    |
| 事務局職員 | 局長    | 1名  | 係長           | 1名 | 主任     | 1名 | 主事 | 1名 |
|       | 常勤嘱託員 | 1名  | 臨時職員         | 0名 | 非常勤嘱託員 | 5名 |    |    |

#### 1 県青少年育成協会の運営

##### (1) 総会

###### ①令和元年度定時総会

- ・開催日 令和元年6月21日(金)
- ・会場 県立青少年会館(水戸市)
- ・出席正会員 100名中80名(書面表決者32名を含む)
- ・議事 平成30年度事業報告・収支決算、役員の補欠選任、役員の選任
- ・平成30年度事業報告並びに収支決算を承認するとともに役員の補欠選任及び役員の選任について議決した。
- ・新正会員として「公益社団法人茨城県看護協会」の入会について報告した。

##### (2) 理事会等

###### ①第1回理事会

- ・開催日 令和元年6月5日(水)
- ・会場 県立青少年会館(水戸市)
- ・出席理事 28名中22名 ・出席監事 2名中1名
- ・議事 令和元年度定時総会付議事項等について審議し議決した。  
議案第1号 平成30年度事業報告並びに収支決算について  
議案第2号 令和元年度定時総会の開催について  
議案第3号 役員の補欠選任について  
議案第4号 役員の選任について  
議案第5号 正会員の承認について
- ・今後の主な事業及び事業の執行状況について報告した。
- ・賛助会員の募集について協力を依頼した。
- ・役員から青少年育成活動状況について報告があった。

###### ②第2回理事会(令和2年3月4日)

- 新型コロナウイルス感染症拡大を受け、令和2年3月2日、会長大窪修二が、副会長、理事及び監事の全員に対して、理事会の決議の目的である事

項（議案）について提案書を発送し、令和2年3月10日までに、副会長及び理事の全員から文書により同意する旨の意思表示を、また、監事からは文書により異議がない旨の意思表示を得たので、定款第37条第2項の規定（一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第96条）に基づき、次のすべての議案が承認可決する旨の理事会の決議があったものとみなされた。

議案第1号 令和2年度活動方針並びに事業計画について

議案第2号 令和2年度予算について

議案第3号 基本財産の一部処分（取り崩し）について

議案第4号 「ライオンズクラブ国際協会333-E地区」からの  
正会員会費納入の免除について

議案第5号 「青少年会館1階厨房及び談話室の床改修工事」に係る  
「建物附属設備」の茨城県への寄贈について

議案第6号 正会員の承認について  
「茨城県生涯学習・社会教育研究会」  
(令和2年4月1日から入会)

議案第7号 役員改選の方針について

- ・ 青少年団体等表彰式・実施事業の説明会及び意見交換会の中止、青少年団体等顕彰受賞者及び感謝状の贈呈、「家庭の日」絵画・ポスター応募状況及び最優秀作品及び事業の執行状況について報告した。

### ③正副会長会議（役員連絡会議）

#### （第1回）

- ・ 開催日 平成31年4月3日（水）
- ・ 会場 県立青少年会館（水戸市）
- ・ 出席正副会長：8名中7名出席
- ・ 関係機関団体との連携（担当役員）及び主な事業内容等について協議した。

#### （第2回）

- ・ 開催日 平成31年4月20日（土）
- ・ 会場 県三の丸庁舎（水戸市）
- ・ 出席正副会長：8名中7名出席
- ・ 関係団体等への出席結果等について情報の共有を行うとともに、「市町村  
村民会議 会長・事務局長・青少年行政担当者等研修会」及び青少年育  
成活動推進意見交換会等について協議した。

#### （第3回）

- ・ 開催日 令和元年7月26日（金）
- ・ 会場 県立青少年会館（水戸市）
- ・ 出席正副会長：8名中8名出席

- ・関係団体等への出席結果等について情報の共有を行うとともに、事業費予算の捻出計画及び事業評価の協議、地域を編む孤立0（ゼロ）プロジェクト事業へ応募のあった団体の中からモデル団体の選定を行った。

(第4回)

- ・開催日 令和元年11月15日(金)
- ・会場 県立青少年会館(水戸市)
- ・出席正副会長：8名中7名出席
- ・関係団体等への出席結果等について情報の共有を行うとともに、令和2年度事業計画及び予算の方向性、子ども若者アシストi（アイ）事業、推進大会及び大人のマナーアップの事業評価について協議した。

(第5回)

- ・開催日 令和2年2月19日(水)
- ・会場 アダストリアみとアリーナ会議室(水戸市)
- ・出席正副会長：8名中8名出席
- ・関係団体等への出席結果等について情報の共有を行うとともに、第2回理事会上程する議案について協議した。
- ・県民運動等に貢献した3団体・法人へ感謝状の贈呈を決定した。

④監査の実施

- ・開催日 令和元年5月30日(木)
- ・会場 県立青少年会館(水戸市)
- ・平成30年度事業報告及び収支決算について、大内元一監事及び今関裕夫監事が監査を行った。

## 2 県民運動推進事業

### (1) 青少年育成活動推進意見交換会

#### ①第1回

- ・開催日 令和元年6月21日(金) (定時総会時)
- ・会場 県立青少年会館(水戸市)
- ・出席者数 140名
- ・講演

演題 「地域を編む 孤立0（ゼロ）に向けて」

講師 茨城県生涯学習・社会教育研究会 長谷川 幸介 会長

#### ②第2回(令和2年3月27日)

- 新型コロナウイルス感染症拡大を受け、市町村民会議、正会員団体等へ平成2年度活動方針並びに事業計画、収支予算、基本財産の一部処分及び役員改選の方針について資料を送付し、書面により意見、要望等を伺い対応した。

### (2) 広報活動

青少年育成県民運動を広報啓発するため、ホームページ、機関紙等の各種媒体を活用して広報活動を行った。

機関紙「あけぼの」

第 132 号 令和 2 年 3 月発行 10 ページ 6,500 部

配 付 先 市町村、市町村民会議、正会員、賛助会員、県庁関係課、  
県等関係機関・団体、都道府県民会議等

### (3) 各種表彰

#### ①青少年団体等顕彰

地域で地道に優れた活動を展開している青少年団体、青少年、青少年育成団体及び青少年育成指導者を表彰し、その活動を奨励した。

青少年団体等顕彰選考委員会 令和 2 年 2 月 19 日(水)

アダストリアみとアリーナ会議室で開催 選考委員 8 名出席  
表彰式(令和 2 年 3 月 27 日)

顕彰件数 14 件 (青少年団体 3 団体 青少年育成団体 3 団体  
青少年育成指導者 8 名)

●新型コロナウイルス感染症拡大を受け、表彰式は中止し、青少年団体等顕彰受賞者へは、推薦団体から表彰状及び記念品の伝達を依頼した。

#### ②感謝状贈呈

青少年育成県民運動に貢献した団体等へ感謝状を贈呈した。

贈呈件数 3 件

- ・令和元年度少年の主張茨城県大会に貢献された団体  
大洗町青少年育成会議 (大洗町)  
(株)鹿島アントラーズ・エフ・シー
- ・令和元年度多額の活動助成金を寄せられた団体  
ライオンズクラブ国際協会 333-E 地区

●新型コロナウイルス感染症拡大を受け、表彰式は中止し、事務局から伝達した。

### (4) 会議等への出席

青少年育成県民運動の連携を図るため、県関係機関、団体が行う青少年健全育成関係諸会議、大会等へ出席・参加し、協力・連携を深めながら効果的な運動の推進を図った。また、22 の機関、団体の事業に対し後援を行った。

○関係機関・団体との連携先 (14 機関団体)

- ・茨城県青少年健全育成審議会
- ・茨城県子ども・若者支援地域協議会
- ・「ダメ。ゼッタイ。」普及運動実行委員会
- ・茨城県安全なまちづくり推進会議
- ・茨城県暴走族対策会議
- ・いきいき茨城ゆめ国体・いきいき茨城ゆめ大会実行委員会
- ・みんなで教育を考える「いばらき教育の日」推進協議会

- ・“社会を明るくする運動”茨城県推進委員会
- ・チャレンジいばらき県民運動 ・茨城県ユースホテル協会
- ・全国青少年育成県民会議連合会・茨城県未成年者喫煙防止対策協議会
- ・(公財)茨城県暴力追放推進センター・公益社団法人茨城原子力協議会

(5) 青少年心理アドバイザーの派遣

青少年育成者の資質向上と地域活動の促進を図るため、青少年心理やカウンセリング等に専門的な技術や知識を有する「青少年心理アドバイザー」を、地域で開催する研修会等へ派遣した。

- ・青少年心理アドバイザー 13人 (登録)
- ・派遣 5回

(6) 青少年関係事業の相談等

青少年団体活動、青少年育成活動に関する相談に応じたほか、研修会等への講師の派遣、幹旋を行った。

### 3 青少年育成県民運動の周知強化事業

青少年育成県民運動の充実と一般県民等へ更なる周知を図るため、賛助会員及び事業協賛金等の募集活動を行った。

(1) 新賛助会員の確保

実績 228,000円 (新規加入 法人 14口 個人 23口 特別賛助会費 19口)

(2) 協賛金・活動助成金等の受入等

|       |                      |          |
|-------|----------------------|----------|
| 協賛金   | 水戸西ライオンズクラブ          | 50,000円  |
|       | 日本たばこ産業株式会社東関東支社     | 50,000円  |
| 活動助成金 | ライオンズクラブ国際協会 333-E地区 | 300,000円 |

※贈呈式は、令和2年2月6日(水)開催の青少年健全育成茨城県推進大会で行った。

篤志家(匿名) 1,000,000円

## II 地域活動推進事業

### 1 市町村民会議活動の推進

地域において青少年育成運動を総合的に推進している市町村民会議等の活動と組織充実のために支援を行った。

(1) 市町村民会議活動の支援

市町村民会議の活動が促進されるよう市町村民会議の総会、研修会等に出席したほか、講師を派遣するなどして活動の支援を行った。

(2) 市町村民会議の結成促進

市町村民会議未結成市町へ訪問し結成促進を図った。

- ・訪問市町 守谷市 阿見町 利根町

(3) 地区市町村民会議連絡会活動の支援

①地区市町村民会議連絡会の活動充実を図るため、各地区で開催される研修会(情報交換会等)に1万円の助成を行った。(令和元年度事務局)

- ・水戸地区青少年育成市町村民会議連絡会(城里町)
- ・大宮地区青少年育成市村民会議連絡会(那珂市)
- ・県北地区青少年育成市町村民会議連絡会(高萩市)
- ・鹿行地区青少年育成会連絡会(鉾田市)
- ・土浦地区青少年育成市民会議連絡会(かすみがうら市)
- ・稲北地区青少年育成市町村民会議連絡会(利根町)
- ・県西東部地区青少年育成市町村民会議連絡会(結城市)
- ・県西西部地区青少年育成市町村民会議連絡会(境町)

②地区市町村民会議連絡会の総会及び研修会に出席して、活動の支援を行った。

## 2 市町村民会議会長・事務局長・青少年行政担当者等研修会

令和元年5月24日(金) 県立青少年会館で開催 34市町村、126名出席

内容 ○県青少年育成協会実施事業の説明

○情報提供

テーマ 「子ども・若者が抱える困難の現状と取り組み」

講師 茨城県保健福祉部子ども政策局

青少年家庭課 埜 淳子 課長補佐

○パネルディスカッション

テーマ 「子ども・若者が抱える困難に対する市町村民会議の支援を考える」

・コーディネーター 鈴木 一司 茨城県青少年育成協会 副会長

・パネリスト 佐藤 信夫 青少年を育てる石岡市民の会東支部 支部長

・パネリスト 市田 信道 鹿嶋市青少年育成市民会議 事務局長

・パネリスト 酒井 賢治 青少年育成かすみがうら市民会議 会長

## 3 青少年育成市町村民会議訪問懇談会

当協会役職員が市町村民会議を訪問し、青少年育成活動の進め方等について関係者と意見交換を行い、県民運動の普及と市町村民会議の活動促進を図った。

○懇談会実施市町村民会議

・鹿嶋市青少年育成市民会議(鹿嶋市)

令和元年12月13日(金) 市まちづくり市民センターで開催 8名出席

・青少年育成行方市民会議(行方市)

令和元年12月13日(金) 市北浦庁舎で開催 6名出席

・青少年育成河内町民会議(河内町)



- 令和元年12月14日(土) 町中央公民館で開催 6名出席
- ・青少年育成牛久市民会議(牛久市)
- 令和元年12月14日(土) 市中央生涯学習センターで開催 8名出席
- ・青少年育成かすみがうら市民会議(かすみがうら市)
- 令和元年12月18日(水) 市あじさい館で開催 7名出席

#### 4 地域を編む孤立0(ゼロ)プロジェクト事業の実施

生きづらさを抱える子ども・若者が、支援の網の目からこぼれ落ちてしまわないよう、地域での連携した支援を進める孤立0(ゼロ)の取り組みの全県的な波及と複合的支援活動の発展を図る「地域を編む孤立0(ゼロ)プロジェクト事業」を実施した。

##### (1) 合同研修会の実施

不登校・ひきこもり、貧困問題など、困難を抱える子ども・若者について理解を深めるため、青少年育成団体等の合同研修会を実施した。

研修会の企画・運営は、協会と共催団体の4団体による実行委員会を組織して行った。

- 開催日 令和元年8月27日(火) 13:00~16:00
- 会場 県立青少年会館(水戸市)
- 共催 青少年育成市町村民会議 茨城県PTA連絡協議会  
茨城県青少年相談員連絡協議会 茨城県生涯学習・社会教育研究会
- 参加者 186名
- 内容
  - ・オープニング
  - ・活動実践者発表
    - <ひきこもり・不登校>  
ひきこもり大学茨城キャンパス(ひたちなか市)
    - <子どもの貧困>  
まちキッチン「あえる」普及委員会(稲敷市)
    - <子ども・若者の居場所づくり>  
特定非営利活動法人華の幹(つくば市)
  - ・分科会
  - ・全体会  
分科会まとめ発表  
講評 茨城県生涯学習・社会教育研究会  
長谷川 幸介 会長
  - ・会場内に参加団体等の活動紹介資料の展示・配布コーナーを設置

(2) 「地域を編む孤立0(ゼロ)プロジェクト」モデル事業の実施

困難を抱える子ども・若者の支援活動に取り組む団体を公募・指定し、1団体10万円を限度として助成した。

また、事業内容を機関紙「あけぼの」で紹介した。

| No. | 実施団体(所在地)          | 事業名                        |
|-----|--------------------|----------------------------|
| 1   | 夢100プロジェクト(下妻市)    | たかさい地域コミュニティスペース開設事業       |
| 2   | 特定非営利活動法人SMSC(稲敷市) | まちキッチン「あえる」によるセーフティネット拡充施策 |

(3) 「地域を編む孤立0(ゼロ)プロジェクト」のための大会の実施

実施団体による事例報告等を行い、青少年育成関係者が共通の認識と課題を探る青少年健全育成茨城県推進大会を開催した。

○開催日 令和2年2月5日(水) 13:00~15:30

○会場 アダストリアみとアリーナ(水戸市)

○参加者 約1,500名

○内容 ・合同研修会実施報告

茨城県PTA連絡協議会事務局長 大和田 栄 氏

・パネルディスカッション

<コーディネーター>

茨城県生涯学習・社会教育研究会長 長谷川 幸介 氏

<パネリスト>

ひきこもり大学茨城キャンパス 代表 大谷 武郎 氏

特定非営利活動法人SMSC/まちキッチン「あえる」

普及委員会

高島 聖也 氏

茨城県ひきこもり相談支援センター長 浅沼 秀司 氏

### Ⅲ 青少年健全育成事業

#### 1 少年の主張茨城県大会

少年の社会への関心や視野を広めるとともに、物事を論理的に考える力や自らの主張を正しく理解してもらう力などの育成を図るため、県内中学生から主張文を募集し、優秀者10名が発表する県大会を開催した。

また、全国大会出場候補者として、最優秀者(茨城県知事賞受賞者)を関東甲信越ブロック審査(書類審査)へ推薦した。

主張発表記録集を作成し中学校等に配付した。

茨城県知事賞、茨城県議会議長賞及び茨城県教育委員会教育長賞受賞者の発表を収録したCDを作成し、希望のあった中学校、市町村及び正会員団体等へ配付した。

- 発表大会 令和元年9月21日(土) 大洗文化センター 大ホール(大洗町)で開催
- 共催 大洗町 大洗町教育委員会 大洗町学校長会 大洗町青少年育成会議
- 参加者 約700名(町内中学生、市町村民会議、青少年育成関係者等)
- 応募者総数 15,682名(151中学校、36市町村)
- 県青少年育成協会への推薦 256作品
- 最優秀者(茨城県知事賞) 筑西市立下館南中学校3年  
福田 遥生(ふくだ はるき)
- 発表記録集の作成 1,000部
  - ・配付先 中学校、市町村教育委員会、市町村民会議、正会員、県関係機関・団体等
- 発表収録CDの作成 34枚

#### IV 明るく楽しい家庭づくり・「地域親」推進事業

##### 1 大人のマナーアップ運動—大人が変われば、子どもも変わる—の推進

地域の大人や親一人ひとりが、自分自身を省みて子どもたちの手本になるよう心がける「大人のマナーアップ運動—大人が変われば、子どもも変わる—」の普及啓発を図った。

###### (1) 大人のマナーアップ宣言

- ・スマホを閉じて子どもに目を向ける
- ・子どもの笑顔をつくれる大人になる
- ・(地域の実情に合わせて項目を追加してください)

###### (2) 「大人のマナーアップ運動—大人が変われば、子どもも変わる—」街頭キャンペーンの実施

県民に広くアピールするために、関係機関・団体と連携し、「あいさつ・声かけ運動」とあわせて「大人のマナーアップ運動—大人が変われば、子どもも変わる—」街頭キャンペーンを実施した。

併せて、「ながらスマホ0(ゼロ)」県民運動の普及啓発を推進した。

| 実施日       | 実施場所  | 参加者数 |
|-----------|-------|------|
| 11月 1日(金) | 水戸駅   | 335人 |
|           | 日立駅   | 150人 |
|           | 常陸多賀駅 | 32人  |
|           | 十王駅   | 148人 |
|           | 土浦駅   | 263人 |
|           | 荒川沖駅  | 19人  |
|           | 神立駅   | 20人  |

|           |                      |                    |
|-----------|----------------------|--------------------|
| 11月5日(火)  | 小木津駅<br>大みか駅<br>つくば駅 | 31人<br>15人<br>135人 |
| 11月6日(水)  | 下館駅                  | 166人               |
| 11月7日(木)  | 新銚田駅                 | 31人                |
| 10月15日(火) | 守谷駅                  | 97人                |
| 参加者合計     |                      | 1,442人             |

### (3) 啓発資料の作製

市町村民会議等へのぼり旗及びポケットティッシュの共同作製を斡旋した。

<大人のマナーアップ のぼり旗>

共同作製 7市町 計 327枚

育成協会作製 30枚

<大人のマナーアップ、あいさつ・声かけ運動 ポケットティッシュ>

共同作製 18市町村 計 43,500個

育成協会 15,000個 (街頭キャンペーンで配布)

## 2 「あいさつ・声かけ運動」の推進

地域の大人と子ども、大人同士、子ども同士のコミュニケーションを広げる「きっかけ」とするため、家庭、学校、地域の中で日々「あいさつ・声かけ」が交わされるよう、県民や関係機関・団体への普及啓発に取り組むとともに、青少年育成市町村民会議等が推進主体になって地域で運動を展開するよう支援した。

### (1) 「あいさつ・声かけ運動」強調月間街頭キャンペーンの実施

11月を「あいさつ・声かけ運動」強調月間と定め、関係機関・団体と連携し「大人のマナーアップ運動—大人が変われば、子どもも変わる—」とあわせて「あいさつ・声かけ運動」街頭キャンペーンを実施した。

| 実施日       | 実施場所                              |
|-----------|-----------------------------------|
| 11月1日(金)  | 水戸駅・日立駅・常陸多賀駅・十王駅<br>土浦駅・荒川沖駅・神立駅 |
| 11月5日(火)  | 大みか駅・小木津駅                         |
| 11月5日(火)  | つくば駅                              |
| 11月6日(水)  | 下館駅                               |
| 11月7日(木)  | 新銚田駅                              |
| 10月15日(火) | 守谷駅                               |

### (2) 啓発資料の作製

市町村民会議等へのぼり旗及びポケットティッシュの共同作製を斡旋した。

<あいさつ・声かけ運動等 のぼり旗>

共同作製 12市町 計 890枚

### 3 明るく楽しい家庭づくり運動の推進

#### (1) 「家庭の日」の推進

家族の絆を深め、家庭を大切にし、明るく豊かな家庭を築く「家庭の日」（第3日曜日）を推進した。

##### ① 「家庭の日」絵画・ポスターの募集

市町村及び市町村民会議に小学生の部、中学生の部、各3作品以内として募集を行った。

応募のあった作品は、青少年健全育成茨城県推進大会会場に展示し、大会参加者が選定した最優秀作品6作品を機関紙「あけぼの」及びホームページで紹介し、「家庭の日」の普及を図った。

##### ○応募状況

- ・市町村応募数（27市町村）

小学生の部 3,742作品 中学生の部 628作品 合計 4,370作品

- ・県青少年育成協会への推薦

小学生の部 77作品 中学生の部 39作品 合計 116作品

##### ○「家庭の日」絵画・ポスター展示

- ・令和2年2月5日(水)

アダストリアみとアリーナ 2階ロビー

(青少年健全育成茨城県推進大会会場)

##### ○最優秀賞受賞者

| No. | 氏名     | 性別 | 学校・学年          | タイトル                 |
|-----|--------|----|----------------|----------------------|
| 1   | 大山 芽生  | 女  | 石岡市立柿岡小学校・1年   | ぺったんぺったんかぞくみんなでおもちつき |
| 2   | 澤田 廉司  | 男  | 常総市立石下小学校・6年   | つれたよ!                |
| 3   | 黒須 優月  | 女  | 坂東市立岩井第二小学校・6年 | おばあちゃんのたんじょう日会       |
| 4   | 大圖 達也  | 男  | 石岡市立八郷中学校・1年   | 遊覧鳥舞                 |
| 5   | 宮田 桃子  | 女  | 那珂市立第二中学校・3年   | 今まで、ありがとう            |
| 6   | 千葉 叶希宗 | 男  | 筑西市立協和中学校・3年   | 全員集合                 |

### 4 青少年健全育成茨城県推進大会

子育て中の親や青少年育成関係者が一堂に会する大会を開催し、「中学生の主張発表」や「地域を編む孤立0(ゼロ)プロジェクト」などの発表やパネルディスカッション等を通して、青少年の健全育成に向けての理解と普及啓発を図った。

- 開催日 令和2年2月5日(水) 13:00～15:30
- 主催 茨城県(公社)茨城県青少年育成協会  
青少年育成市町村民会議
- 会場 アダストリアみとアリーナ(水戸市)
- 参加者 約1,500名
- 内容
  - ・中学生の主張発表
  - ＜発表者＞
    - 福田 遥生 筑西市立下館南中学校 3年
    - 井上 巧基 水戸市立第一中学校 1年
  - ・パネルディスカッション
  - ＜コーディネーター＞
    - 茨城県生涯学習・社会教育研究会長 長谷川 幸介 氏
  - ＜パネリスト＞
    - ひきこもり大学茨城キャンパス 代表 大谷 武郎 氏
    - 特定非営利活動法人SMS C/まちキッチン「あえる」  
普及委員会 高島 聖也 氏
    - 茨城県ひきこもり相談支援センター長 浅沼 秀司 氏
  - ・「家庭の日」絵画・ポスター展示及び優秀作品への投票

## V 非行防止・社会環境浄化推進事業

### 1 薬物乱用防止「ダメ。ゼッタイ。」普及運動の推進

茨城県及び茨城県薬物乱用防止指導員協議会が主体となって実施する「ダメ。ゼッタイ。」普及運動に市町村民会議と共に参加協力した。

(1) 「ダメ。ゼッタイ。」普及運動 6.26 ヤング街頭キャンペーンへの参加活動

- ・実施日 令和元年6月26日(水)を中心に実施
- ・場所 県内12地区

(2) 「ダメ。ゼッタイ。」看板設置による広報啓発活動

薬物乱用防止を啓発する看板を県立青少年会館に設置して広報啓発活動を行った。

### 2 未成年者の喫煙防止活動の推進

茨城県未成年者喫煙防止対策協議会が主催となり、国県関係機関、市町村民会議、県青少年相談員連絡協議会、県更生保護女性連盟、茨城県たばこ販売協同組合、日本たばこ産業(株)東関東支社等とともに未成年者喫煙防止街頭キャンペーンを行い、未成年者の喫煙防止啓発活動の推進を図った。

- ・実施日 令和元年7月11日(木)
- ・場所 水戸駅 勝田駅 日立駅 土浦駅 取手駅 下館駅 古河駅

## 鹿島神宮駅

### 3 「いばらき青少年・若者プラン」に呼応した活動の推進

茨城県等が主体となって実施した「茨城県フィルタリング普及啓発推進月間」・「春のあんしんネット・新学期一斉行動」周知啓発街頭キャンペーンに参加協力し、有害情報から青少年を守るフィルタリング普及啓発活動を推進する。

- 新型コロナウイルス感染症拡大を受け、「茨城県フィルタリング普及啓発推進月間」及び「春のあんしんネット・新学期一斉行動」周知啓発街頭キャンペーンは中止となった。

### 4 安全なまちづくり県民運動の推進

茨城県安全なまちづくり推進会議が主体となって実施するキャンペーンに参加協力した。

- ・実施日等 令和元年 6月 9日(日)「ロックの日」街頭キャンペーン  
令和元年 10月 11日(金)安全なまちづくりキャンペーン  
令和元年 11月 25日(月)「犯罪被害者週間」キャンペーン

## VI 青少年会館運営事業

### 1-1 茨城県立青少年会館（研修室）の運営<公益目的事業>

指定管理者である茨城県立青少年会館において、青少年及び若者の研修、学習、その他の活動を促進することを目的とする施設貸与を行った。

- (1) 浄化槽更新工事等の実施
- (2) 青少年等に対する低料金での施設貸与
- (3) 青少年利用に限定した1年前からの予約受付期間の設定
- (4) 2月から3月にかけて、新型コロナウイルスの影響により利用が大幅減となった

### 1-2 茨城県立青少年会館（研修室）の運営<収益事業>

指定管理者である茨城県立青少年会館において、青少年等以外に対する施設貸与を行った。また、利用者に対してコピーサービスや食事提供の斡旋、またカプセルトイレの継続設置等、サービス向上のための事業を実施した。

|                    | 平成30年度 | 令和元年度  | 前年度比  |
|--------------------|--------|--------|-------|
| 1-1 青少年等利用件数       | 400件   | 370件   | 92.5% |
| 1-2 一般(青少年等以外)利用件数 | 2,173件 | 1,942件 | 89.4% |
| 合計                 | 2,573件 | 2,312件 | 89.9% |

## 2-1 偕楽園ユースホステル（宿泊室）の運営<公益目的事業>

指定管理者である偕楽園ユースホステルにおいて、青少年及び若者の健全な旅行を励行し、規則正しい行動を習得させることを目的とする施設貸与を行った。

- (1) 青少年等に対する低料金での施設貸与
- (2) 青少年団体等の引率者、関係者に対する割引料金の適用
- (3) 青少年利用に限定した1年前からの予約受付期間の設定
- (4) いきいき茨城ゆめ国体の宿泊者受け入れ
- (5) 2月から3月にかけて、新型コロナウイルスの影響により利用が大幅減となった

## 2-2 偕楽園ユースホステル（宿泊室）の運営<収益事業>

指定管理者である偕楽園ユースホステルにおいて、青少年等以外に対する施設貸与を行った。宿泊室の複数利用者に対する割引料金の適用、洗濯機・乾燥機の設置、アメニティグッズの販売等のサービス向上を図り、利用者増に努めた。

|                    | 平成30年度 | 令和元年度  | 前年度比   |
|--------------------|--------|--------|--------|
| 2-1 青少年等利用人数       | 1,633名 | 1,125名 | 68.9%  |
| 2-2 一般(青少年等以外)利用人数 | 1,289名 | 1,847名 | 143.3% |
| 合計                 | 2,922名 | 2,972名 | 101.7% |

## 3 青年リーダーの養成に関する事業

### (1) 若者ボランティアチーム「いばらきユースプロジェクト」の設置運営

青年たちが自主的な地域活動を通して仲間作りや達成感を体験することで成長し、地域における青年活動のリーダーとなる人材を育てることを目的に「いばらきユースプロジェクト」を組織してボランティア活動を行った。本年度登録メンバー：20名（男性：11名 女性：9名）

#### ①結団式

開催日 令和元年7月6日(土) 10:00~12:00  
場 所 茨城県立青少年会館 アイルーム  
内 容 結団式を行って活動をスタートさせるとともに、自己紹介、事業の概要説明を行い、メンバーの交流を図った。

#### ②イベント出店

開催日 令和元年11月10日(日)  
場 所 茨城県立歴史館 (いちょうまつり)  
内 容 コルクボードに、思い思いの切り絵を貼付する「ボードアート」を行った。

#### ③自主企画「クリスマスわくわくフェスティバル」の実施



開催日 令和元年 12 月 22 日(日)13:00～16:00  
場 所 茨城県立青少年会館 中研修室 1  
内 容 幼稚園年少児から小学校 2 年生 20 名を対象に、オリジナルリ  
ース作りとメッセージカード作りを企画した。  
何度も繰り返しミーティング等を行い、チラシ作成から準備、  
当日の運営まで、メンバー自らが企画運営を行った。

(2) 子ども・若者アシスト i (アイ)事業の実施

児童に地域で学ぶことの楽しさや教えあう喜びを体験することを目的に、地  
域のマンパワーを活用した学習会を開催した。

開催日 令和 2 年 1 月 11 日(土) 10:00～12:00

場 所 茨城県立青少年会館

内容及び講師

①はじめて学ぶ英語教室

茨城キリスト教学園高等学校 非常勤講師 荷見 智子 氏

②はじめて学ぶプログラミング

CoderDojo 水戸 メンター 大谷 武郎 氏

③学習支援活動

参加者数

①はじめて学ぶ英語教室 10 名 (申込者数 16 名)

②はじめて学ぶプログラミング 11 名 ( " 16 名)

●第 2 回目は、3 月 14 日(土)に予定していたが、新型コロナウイルスの感染防  
止のため、開催を中止した。

また、居場所づくり、ひきこもり対策として「子ども・若者アシスト i (ア  
イ)事業」の活動を充実させるための設備の改修費として、日本原子力発電株  
式会社から 700 万円の寄付があった。

なお、この寄付金の活用については、新型コロナウイルスの感染拡大により  
本年度事業の実施ができなかったため、令和 2 年度事業へ充当することとした。